

Title	語文 第9輯 編輯後記／奥付
Author(s)	
Citation	語文. 9
Issue Date	1953-07-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68434
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編輯後記

例になく長い梅雨が続いて七月に入り、この学校も夏季の休暇を迎へる頃になった。この第九輯が世に出る時は、盛夏酷暑の候であらう。もとより銷夏の読物として編輯したのではないが、緑蔭の机上に贈り、清鑑あらんことをこひねがふ次第である。

本輯には大養・原田の両氏ならびに小生の論稿を主論文として、小島博士の続稿を掲げた。それぞれ趣を異にしてゐて、いづれも皆新しい問題に触れたものである。大方の忌憚なき御批判、御叱正を期待してゐる。

前輯に解説と書物の写真とを掲載した「浪華日記行」は、やはり小島博士を煩はして、本輯にその本文を翻刻して入れることができた。この際前輯を御所持なき方は、是非とも本輯と合はせてお求め下されたい。本誌は月刊雑誌ではなく、また広く書店の店頭に出な

いため、今までお買ひ洩らしになった方もかなりあるのではないかと考へる。新しい購読者で、創刊号から取揃へて購読したいと希望せられる方も時々ある。現在のところ、もちろん部数に限りはあるが、第一輯を始め各輯とも御購読に應ずることができる。発行所或は当研究室宛御申込を乞ふ。

七月の下旬から八月にわたって、例年の如く各種の夏季講座や講習会が催され、御多忙の方も多いことと思はれる。暑さきびしき折柄、切に各位の御自愛を祈つて擲筆する。

(宇佐美)

本誌は昭和廿五年創刊以来、定価四十円を堅持して参りましたが、諸物価騰貴のため、若干値上の必要が生じました。この機会に紙質をよくして定価五十円と致すことになりました。何卒、事情御賢察の上、倍旧の御支援を願上げる次第でございます。猶、今までに前金でお払い込みになってある分に限り、追加代金は不要といたします。

◆投稿規定◆

- 直接購読者は投稿することができる。
- 原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものであること。分量は四百字詰原稿用紙二十枚以内とする。
- 原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
- 原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
- 採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送に應ずる。
- 一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

◆雑誌の寄贈・交換について

○雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原大阪大学文学部国文学研究室宛に願いたい。

◆購読について

○購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。(送金は振替を利用されたい)

一 部 五十円 送料八円
 一年分(四回分)二百円(送料共)
 ○五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

¥ 50

発行所 大阪市南区横須7丁目19 文進堂 振替大阪112730番 電話船場1993
編輯者 大阪府豊中市築屋 大阪大学文学部国文学研究室 代表 小島吉雄